



やなぎっ子

さいたま市立片柳小学校

TEL 048-683-3174

FAX 048-683-8971

<http://katayanagi-e.saitama-city.ed.jp/>

ふるさと ～思いの宿る場所～

校長 萩原 哲哉

染谷観音堂前の枝垂桜に見とれて歩いていると、手前の菜の花畑が、にわかには動き出しました。はっとしてよく見ると、黄色帽子をかぶった登校班の列でした…。こんな素敵な光景に出会えるのも、片柳の「よさ」なのだ実感しています。「風暖かき ふるさと（片柳中学校・校歌の一節）」のままの「片柳」です。

「ふるさと」と聞いて思い浮かべる光景は人さまざまですが、心の拠り所となる場所であり、温かい気持ちにさせてくれる場所である、という点では共通しているのではないのでしょうか。

新学期がはじまり、約3週間。月曜から始まった平成31年度。初日はほぼ100パーセントの出席率で、子どもたちは新しい学年・新しいクラスで生活を始めています。はじける笑顔で明るく生活しながら、子どもたちにとっては、毎日が努力の積み重ね。早起きして長い通学路を登校することをはじめ、新しいお友達に対しては、「このお友達に、こうお話ししたら、どうかな。」はじめての教科の学習では「このお勉強、こんな風に進めてみようかな」等々。ちょっとした何気ないことであっても、子どもにとっては多くのことが「はじめて」の経験です。子どもたちの毎日は、挑戦と努力であふれています。挑戦を重ねた場所、努力を重ねた場所には強い思いが宿り、やがて心の中の暖かな場所で「ふるさと」になっていくものなのだ、思います。

この「努力」には、三通りの様態があると考えています。

まず「汗を流す」努力。運動でも勉強でも、一生懸命に課題に取り組めば、体から、あるいは頭や心から「汗」が流れます。百ます計算をしておえた後の達成感も、ある意味で「汗」なのでしょう。二番目は「涙を流す」努力。一生懸命に取り組めば何とかなる課題ばかりではありません。思い通りにできなかつたり、覚えられなかつたりすることもたくさんあります。「自分はこんなに頑張っているのに…！」という悔しさに耐えながら取り組むこともまた、多く会うことだと思います。

そして三番目が「血を流す」努力（もちろん、比喩的な意味です。）。スポーツの世界でよく耳にする「血のにじむような努力」のこと。手のマメを何度もつぶし、体のあちこちにアザをつくりながら、一心不乱に取り組む努力。人生の中で、何度か経験するものだと思います。

努力の末得られた知識や経験は、そのまま「生きる力」になります。「よく学び 生きる力にあふれる子」の育成に向けて、今月も力を尽くしてまいります。

